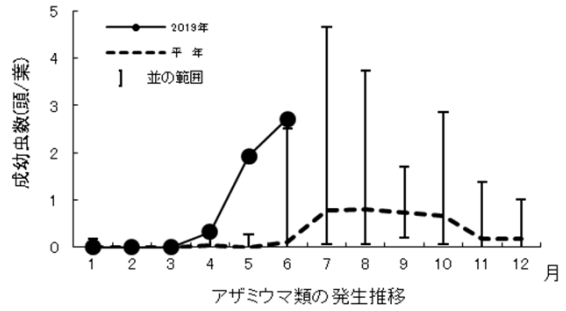
平成　31 年度　　7 月予報

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	7 月の発生量（平年比）	並～やや多	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 （気象要因など）	トラップ誘殺虫数が平年並 平年の発生量の推移（↗）	

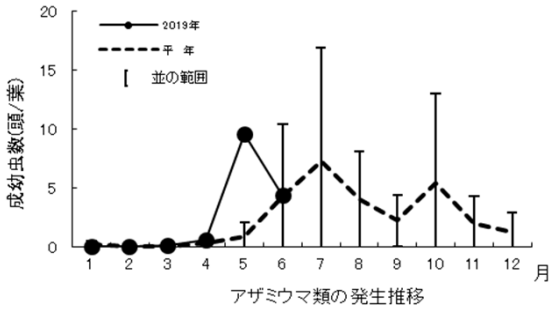
調査結果

（見取り調査）

〈中央値〉

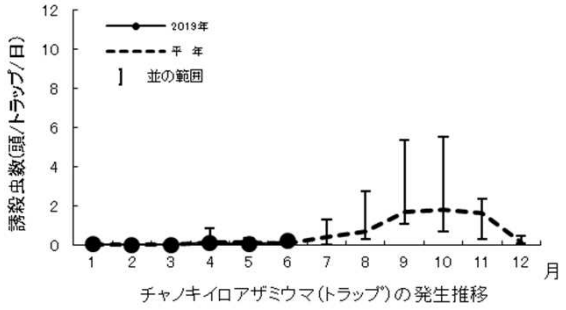


〈算術平均値〉

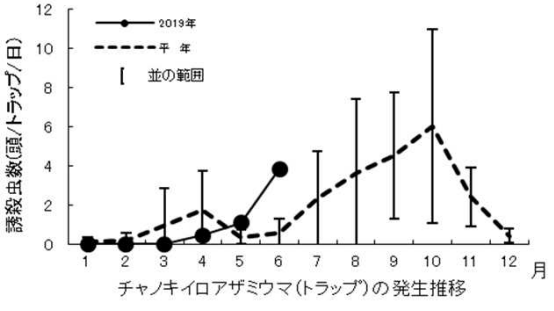


（トラップ調査）

〈中央値〉



〈算術平均値〉



・　病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

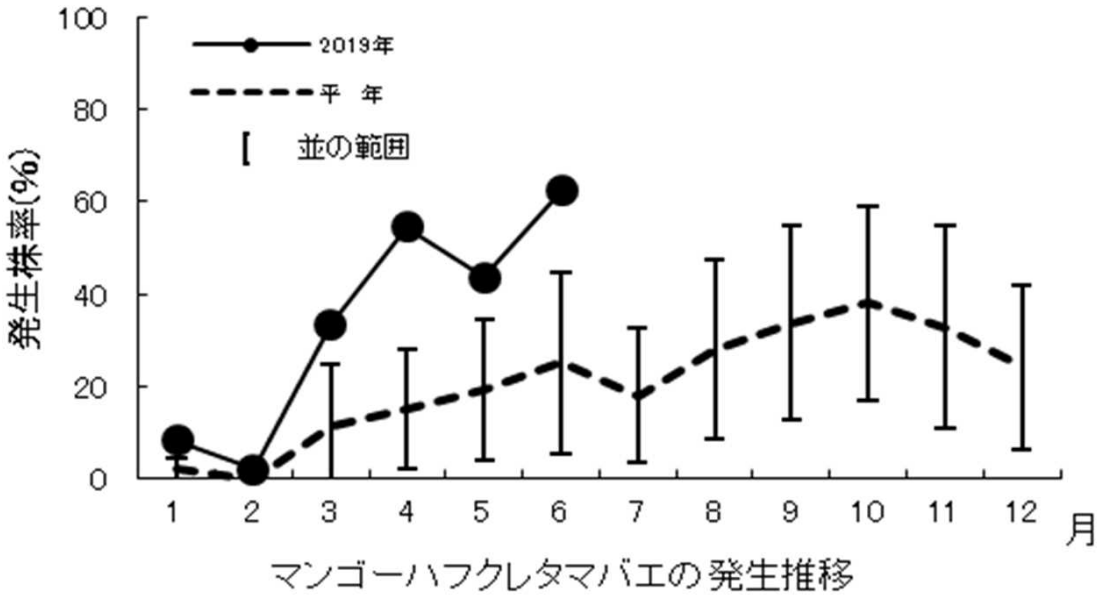
・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ナガエコミカンソウ

平成　31 年度　　7 月予報

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
予報	7 月の発生量（平年比）	やや多		
	6 月からの増減傾向	↘		
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	やや多		
	その他 （気象要因など）	平年の発生量の推移（↘）		

調査結果



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

- 被害新梢率：24.3%
- 発生施設率：87.5%（平年40.0%）

防除のポイント

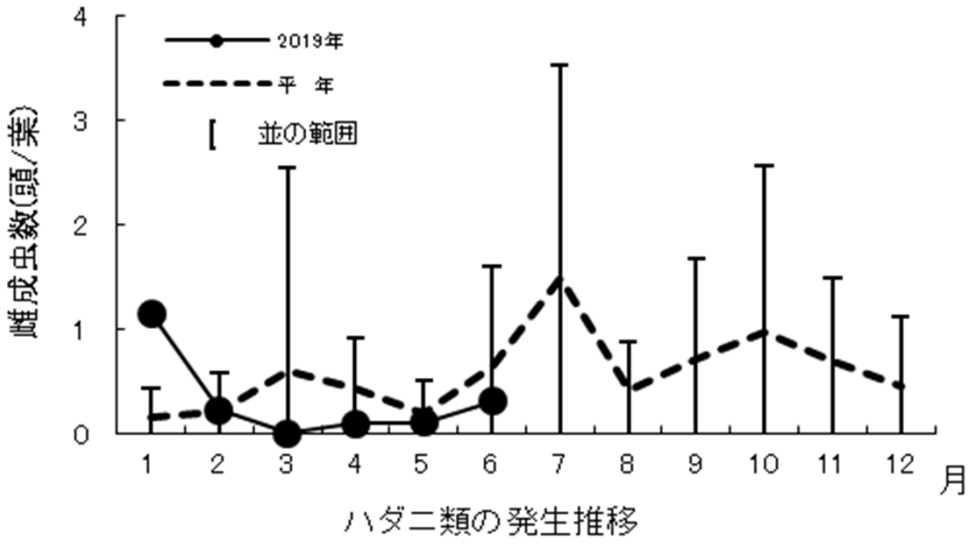
・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

平成　31 年度　　7 月予報

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		シュレイツメハダニ	
予報	7 月の発生量（平年比）	並		
	6 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	並		
	その他 （気象要因など）	平年の発生量の推移（↗）		

調査結果



ハダニ類の発生推移

- 発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- 発生施設率：50.0%（平年42.2%）
- 新梢での寄生雌成虫数：0.1頭以下（発生種：シュレイツメハダニ）
- 病害虫防除員報告：中発生（本島南部）

防除のポイント

・収穫終了後の防除を徹底する。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニの寄生による葉のかすれ症